



SAPジャパン株式会社主催 (JSUG設備保全部会協賛)

ChatGPT 4o の生成画像

みんなで形にするデジタル技術を活用した プラント業務のこれからの姿

デジタルプラント
イニシアティブ 2025

2018年12月より延べ40企業・団体以上から有志が集まり、デザインシンキングの手法を用いて未来のプラント業務のあるべき姿の検討を行い、好評を頂いて参りました。これまで交わされた議論はデジタルテクノロジーの活用にとどまらず、企業間協調、業務プロセスと基準・規制、組織と人材育成まで多岐に渡ります。

今年のセッションは、アンケートを通じてこれまで頂いたご評価、ご要望を反映し、「優秀な人材の獲得」「プラントオーナーとメーカー・協力会社」「人間とデジタル技術・AI」それぞれの役割分担に着目しながら、「先進事例紹介とパネルディスカッション」「異なる企業の参加者と意見交換しながら行うグループワーク」を通じて、

- 生成AIで事務負担軽減、優秀な人材獲得と価値創出のための未来戦略とロードマップはどのようなものか？
- プラントオーナー、メーカー、サービスプロバイダ各社が連携・協業を強化し、業務品質と安全を担保するためには？

という課題を解決するためのアクションを考察します。深い議論と情報交換がしやすいようリモートではなく対面での開催といたします。プラント業務の未来に関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

日時： 第一回開催 2025年10月2日(木)
第二回開催 2025年10月9日(木)
各日とも13:00 - 17:00 (終了後懇親会予定)

場所： 三井物産ビル11F SAP大手町オフィスでの対面開催

対象： プラント業務、設備保全業務のあるべき未来の姿に関心のあるプラント操業、設備製造、行政の皆様、第一回、第二回それぞれ2名程度

参加料： 無料(事前登録制)

お問い合わせ： 弊社担当営業にご連絡ください

- 参加をご希望される場合は「氏名」「会社名」「役職」「メールアドレス」「参加日」「経営視点グループか現場視点グループか」を弊社担当営業までお伝えください。追って受講票を送付いたします。
- 第一回開催、第二回開催は類似の内容です。(事例セッション、パネルディスカッションの内容が一部異なります) 参加される際にはどちらか一方を選択ください。

- 第一回開催、第二回開催とも終了後に同会場場でネットワーキングのための簡単な懇親会を予定しております。活発な情報交換の場となりますので、ぜひご参加ください。

THE BEST RUN



イベント開催趣旨

予定アジェンダ、アウトプットは、予告なく変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください

背景	<p>デジタル技術の活用は進みつつあるが、それ以上にカーボンニュートラルの要求や労働人口減少などのビジネス環境の変化が大きい</p> <p>設備の点検や検査を効率よく実施できるデバイスの現場適用や、データに基づく故障の予測分析など、デジタル技術の活用が広がっています。一方でカーボンニュートラルの要求や労働人口減少などビジネス環境が大きく変化しており、これまで培ってきた安全や品質を維持することが簡単ではなくなっています。</p> <ul style="list-style-type: none">カーボンニュートラルへの対応など新しいプロセスが必要になれば、リスクや技術も新しく考え直さなければならない一方、対応力のある経験豊富なベテランの技術者、運転員、保全員はすでに退職しており、また若い世代の人材も集まりにくい。その結果対応力・応用力のある人材の育成が進まない。人材不足はプラントオペレーターが側だけにとどまらず、メーカー、サービスプロバイダー側も経験豊富なエンジニアリソースが減少している。
目的	<p>同じ志と悩みを持つ同士が集まり意見交換することで、変革を進める知恵とチカラを得る</p> <ul style="list-style-type: none">企業と業種の壁を越えて共通の理解を持ち自由な意見交換がしやすい「設備管理」をメイントピックとし、グループでのディスカッションを通じてネットワークを広げます。普段議論をする機会のない他社の考え方を学び、共通の課題と改革への意欲を確認して、自社の変革を進めるための材料とします。 <p>異なる立場同士で意見交換をすることにより、新しいものの見方と発想を得る</p> <ul style="list-style-type: none">経営と現場、プラントオーナーとメーカー・サービスプロバイダー、官と民、それぞれ異なる立場の考え方や優先度を理解することにより、新しい気づきやアイデアを得ます。それぞれの立場で活動計画をブラッシュアップすることにより業界全体の改革を促進します。

予定アジェンダ、参加へ向けた準備、アウトプットなど

当日のアジェンダ概要	<p>インスピレーションセッション：最新動向・事例紹介プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">10月2日 東京農工大学 大学院 工学研究院工学部 化学物理工学科 教授 山下善之様「仮題：DX時代におけるヒトの役割」10月9日 東洋大学 情報連携学部 准教授 満永拓邦様「仮題：プラント運用とAIの交差点」 <p>インスピレーションセッション：パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none">10月2日 東京農工大学 山下様、保安力向上センター 松尾様、アズビル株式会社 喜多井様 経済産業省大臣官房産業保安・安全グループ産業保安企画室10月9日 東洋大学 満永先生、関電プラント株式会社 北澤様、JR東海 山本様、UBE 堤様 <p>グループディスカッション&パネラーとのQA（グループでディスカッションしパネラーへ質問）</p> <p>ネットワーキング・意見交換・懇親</p>
参加へ向けた準備	<p>過去の回では以下のような切り口で課題やアイデアが議論されています。ぜひご自身の置かれた環境と照らし合わせて、事前に問題提起やアイデアの提供につながるイメージを膨らませてください。</p> <p>人材育成：データ解析力とリスク評価力、少ない経験でもデータをもとにリスク対応ができる力、AIの提案を適切に評価・判断するスキル</p> <p>企業間協調：協同の教育プログラム、希少予備部品在庫情報の共有、故障・トラブル情報の共有、予測分析データの共有、協調領域の明確化</p> <p>テクノロジー：ベテラン保全員の知識・技能のデジタル化と共有、スマートグラスやモバイルデバイスを活用したリモートワーク、センサー・AIによる自動化、データに基づく予測と計画、新しい技術には必ず新しいリスクが伴う</p> <p>業務：協力会社を含めた業務フローと情報連携のデジタル化、保全業務プロセス全体のデジタル化、リスク評価と適正な修繕費の関係、定常業務と比べてトラブルのような非常業務は自動化が難しい、新しいテクノロジーと人間のI/Fで問題が起きやすい、ヒトとAIの役割分担</p>
アウトプット	<p>生成AIの活用や業界連携による業務効率化・人材確保・安全品質向上の実践知を共有し、自社に活かすための知識やヒントを得ることが可能です</p>
参加をお勧めする方々	<ul style="list-style-type: none">企業・業界全体の人材不足の観点からビジネス改革・構造改革を志向する装置産業、メーカー、サービスプロバイダーのビジネスリーダーの皆さま技術と業務品質・働き方の観点からプラント業務の改革を目指す装置産業、メーカー、サービスプロバイダーの現場リーダーの皆さま規制基準の見直し、デジタル技術の導入を通じて業界の改革を促す行政の皆さま <p>座学ではなく、積極的に意見交換を行うグループディスカッションやパネリストとの意見交換がメインとなります。ネットワーキング懇親会の場合も含めて、課題、問題、将来の改善への期待などについて発信をされればされるほど内容の濃い充実したイベントとなります。</p>
ドレスコード	<p>リラックスできる服装を推奨しております。取引先訪問など別のご用件がない限りスーツは推奨いたしません。ジーンズ、デニムでもOKです。</p>